

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-231	15-033	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Vitamin D Deficiency in Community-Dwelling Elderly Is Not Associated with Age-Related Macular Degeneration 地域在住高齢者におけるビタミンD欠乏症は加齢黄斑変性とは関連しない		
<b>執筆者</b>		
Cougnard-Grégoire A, Merle BM, Korobelnik JF, Rougier MB, Delyfer MN, Féart C, Le Goff M, Dartigues JF, Barberger-Gateau P, Delcourt C.		
<b>掲載誌</b>		
J Nutr. 2015 Aug;145(8):1865-72. doi: 10.3945/jn.115.214387.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
ビタミンD、欠乏症、25(OH)D、加齢黄斑変性、高齢者、地域在住高齢者		26084364
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>            高齢者は様々な健康問題によりビタミン D 欠乏症となるリスクが高い。また、これまで、ビタミン D 欠乏症と加齢黄斑変性(AMD)との関連は議論がない。筆者らは高齢者における血清 25(OH)D 欠乏に寄与する因子と、血清 25(OH)D と AMD の関連を調べた。</p> <p><b>方法：</b>            Antioxydants, Lipides Essentiels, Nutrition et maladies OculaiRes(ALIENOR)は、加齢性の各種眼疾患と栄養的要素の関連を採血と食事内容から調べる研究であり、フランスのボルドーでの高齢者を対象として実施された。血清 25(OH)D 値を血液サンプルから集め、25nmol/l 未満(欠乏)・25-49nmol/l(不足)・50nmol/l 以上(充足)に区分し、AMD は AMD なし・早期 AMD・晚期 AMD と分類した。対象基本特性と血清 25(OH)D との関連は多項ロジスティック回帰分析を用いて検討した。また、AMD と血清 25(OH)D との関連を、一般化推定方程式に基づくロジスティック回帰により検討した。</p> <p><b>結果：</b>            697 名のデータが用いられ、25(OH)D 欠乏と不足であったのはそれぞれ 27.3%と 55.9%であった。25(OH)D 欠乏は高齢(P=0.0007)・女性(P=0.0007)・運動不足(P=0.01)・ビタミン D 補給(P&lt;0.0001)・血清総コレステロール高値(P=0.007)・フィブラート系薬剤使用(P=0.0001)・少量アルコール摂取(P=0.02)・血液採取の時期(P&lt;0.0001)において、多項ロジスティック回帰で有意な結果であった。これらの共変数と ω3 不飽和脂肪酸食餌摂取・喫煙・BMI の因子を調整したロジスティック回帰の結果、早期 AMD と 25(OH)D 欠乏あるいは不足(それぞれ OR:0.71,P=0.12 と OR:0.73,P=0.23)、また晚期 AMD と 25(OH)D 欠乏あるいは不足(それぞれ OR:1.04,P=0.93 と OR: 0.74,P=0.59)であり、どちらにおいても有意差は見られなかった。</p> <p><b>結論：</b>            高齢者において血清 25(OH)D 欠乏がかなり高い頻度で確認されたが、AMD への寄与は確認されなかった。</p>		